

公民館報 まつもと

発行

2024

5/30

松本市広報R5-37

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 67

ひつ た り じん だい ざくら

満開の平田里神代桜

宇宙を旅した桜の種が10余年
今年も子どもたちの笑顔とともに

(撮影 2024.4.10 松南地区芳野町)

防災力は地域力

令和6年4月に松本市ハザードマップ（防災マップ）が更新されました。また、各地区町会では「災害時避難所開設訓練」が行われています

3年ぶりに更新されたハザードマップは、100年と1000年に1度程度起こる大雨の場合の地区ごとの浸水想定図2枚と資料編の3枚1組で配布されました。消防防災課の山本さんから「水防法に基づき配布しています。最新の河川の浸水想定区域を反映しました」と説明がありました。

災害に対する日常の備えは

大規模災害の発生に際し、地域住民や町会や地域の公民



今年も依頼受付中! 出前講座: 昨年は 73 件 3,934 人

館として備えるものは? との問いかけに対して「防災力は地域力です」と危機管理課の宮坂さんは明確に答えます。「いろんなイベントに顔を出し存在を知ってもらおう。また、自分が近所を知る。すると、情報の共有が生まれ共に助につながります」

3年間防災を語りつくす

「毎月2時間、10時から昼

まで防災の課題を出すだけのWS（ワークショップ）、これを3年間やりました」この発端は、信大附属小4年生の防災の勉強会でした。「防災の事は地元の町会長に聞いてみようか」そこに信大の防災セン



一時避難場所を町会内 16 か所確保!

ターの助教授が関わり、「地域の避難場所と公共の信大防災センターと一緒にやりましょう」と始まりました。

防災の課題をみんなで語り整理する作業は、昨年10月ごろほぼ完成となり、12月に防災研修会を開催しました。

そしてついに3月2日信大附属小を避難所に、開設訓練を実施し、同月26日に訓練の結果報告会・反省会を開き、締めくくりました。

自助と互助で生き延びる

「何としても3日は生き延びる。停電の冷蔵庫内のものは何でも焼いて保存食を作り、自分の無事を確保する。次に近所同士の助け合いをしてほしい」と強く願います。

野村さんは「自助から近所の互助」と名付けて、公助の手が届くまで生き延びる工夫と行動を呼びかけます。

わがまち自慢 新村地区

開店珈琲ひまわり

現在休業中のレストランを利用して、地域住民・松本大学・考房『ゆめ』の三者が「珈琲ひまわり」を立ち上げました。この店は単なるカフェではなく、さまざまな世代が交流できることを目的としています。

マスター役の日詰さんは「地域みんなの居場所、交流できる場所、大人の子ども食堂を作りました」と意気込んでいます。

開催初日は、話す機会の少ない高齢者や地域の小学生、元氣あふれる大学生



張り切るスタッフ一同



いらっしやい! 店外看板

が集まり、多世代の交流がありました。大学生からは「さまざまな年齢層の方と交流できるので楽しい」と感想が寄せられ、住民も「たくさん話ができてうれし」と喜んでいました。

考房『ゆめ』の大野さんは「大学と地域をつなぐ役目が果たせて満足」と話しました。日詰さんは「みんなが自然と集まり、会話が進むこの場所が多くの人にとって居場所となれば」と願っています。

今後月2回開催予定のこのプロジェクトが軌道に乗れば、単にコーヒーを楽しむ場だけではなく「珈琲ひまわり」が地域のつながりを深める役割を果たすことが期待されます。

視点

地域づくり考房『ゆめ』 地域に挑戦! 松本大学の夢

学生から始める

松本大学・松商短期大学部内の「地域づくり考房『ゆめ』」は、学生が地元住民と共に地域課題の発見・解決を目指す



じゃがいもつくねを作る
寺子屋の子どもたち

組織です。学生200人ほどが参加し、主に13のプロジェクトを軸に活動します。

活動は幅広く、子どもたちの学習・体験の場を作る「寺子屋」、栄村小滝地区にて村おこしの手伝いをする「ええじゃん栄村」など多岐に渡ります。一人の提案が大きなプロジェクトに発展することもあり、学生から始める積極的な行動が地域貢献に繋がっています。

世代を超えた対話

代表の鍵田輝さんは世代間の交流の場づくりに注力しています。新村地区を拠点に毎月開催する「茶房ひといき」は、地域の人々と学生のコミュニケーションの場になっています。



茶房ひといきでのお茶会

ています。

鍵田さんはスマホ相談員として講座を行った経験から、積極的に会話をすることの大切さを実感するようになったといいます。「核家族化が進む中で、学生にとっても貴重な時間。大切な活動だ」と語ります。

「ゆめ」は地域づくりの場

鍵田さんにとって『ゆめ』の魅力とは「自分がやりたい

ように地域に関わることができること」。学生が自分事として地域に新たな糸口を開いていくことが、活動の大きな動機づけになっています。地域活動を行う上での心構えを伺うと、「まずは何でも地域に出てみることから」との答えが。松本大学らしい、積極的に地域に働きかけていく姿勢が活動の随所に表れています。

『ゆめ』は大学組織として地域と学生を繋げながら、よりよい地域づくりを模索し続けています。これからも発展していく『ゆめ』の挑戦に期待が高まります。

動画はこちら!



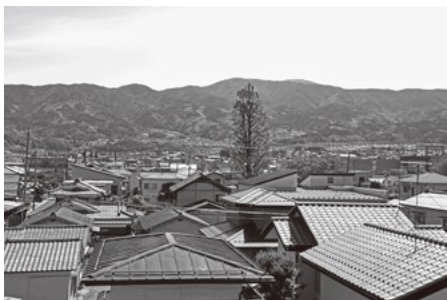
写真でつづる まつもと今昔⑥4

松本市特別天然記念物
～ 旧芳川小学校のタキシジウム～



(撮影：1970年ころ)

明治44 (1911) 年11月25日、芳川尋常高等小学校が新築され、開校式が挙行された。昭和49 (1974) 年5月に現在地に移転するまで、改修・増築しながら使用されていた。旧体育館・中校舎・南校舎と大正初期に植えられたタキシジウム (二列葉松) が見え、校舎の周辺には家が建ち始めている。



(撮影：2022.5.8)

小学校の移転後には新体育館と東校舎が残されて、昭和51 (1976) 年9月12日に芳川公民館・出張所が移転、昭和56 (1981) 年には児童センターや児童遊園が整備されて、他は売却となった。平成5 (1993) 年3月に公民館・出張所が移転し、跡地は売却された。最近ではタキシジウムの落ち葉が問題になり、その対策に苦慮している。

おこひる

先日、子どもプログラミング講座の講師をする機会を得た。小学生でもプログラミングを教科として行うことになって久しい

が、興味を持って取り組んでくれた▼今回はブロックを積み重ねるようにしてプログラムを組み立てる SCRATCH という言語ではなく、古くから使われている BASIC を用いてプログラムを作った。10数行を記述するだけで、簡単なゲームを作ることが課題であるが、テキストに沿ってまづ正しく打ち込むこと。ピリオドとカンマを間違えただけで、正しく動かないことを体験した▼キーボードを使うのに慣れていなくても、すぐに両手で文字を打てるようになる柔軟性、対応力。子どもたちの力に感心させられる。改造して自分だけのゲームを楽しんでいた▼直接見えるもの、見えないものを含めて、今、数多くのコンピューターに囲まれている。スマホやタブレットを手にして、文章を書き写真を貼り付けて授業中に発表をする子どもたち。論理的に考え問題を解決する能力を身に付けてほしい。



「島内地区境及び
20 町会境図」より

島内地区は、蟻ヶ崎の犬甘城山（犬甘城跡）から北に続く丘陵地の麓と、梓川、奈良井川が流れる平坦地から形成されています。

安曇野方面への交通の要衝である一方、繰り返される水害に悩まされながらも豊かな水田地帯を築いてきました。

歴史と風土に彩られた豊穡の地
——遠く白馬連峰まで見通せる素晴らしい眺望

むかしは安曇郡だった！

島内地区

再発見!!

まつもと地名がたり

5

島内の「島」って何？

水に囲まれた陸地を島といいますが、「あそこはあいつの島だ」というように、ある者の支配の及ぶ範囲という意味をもつ言葉でもあります。

地名の変遷をさかのぼると、明応10（1501）年の『種

高神社御造営定日
記』に、平瀬、小
宮とともに、犬甘島が
記されています。これ
は当時の有力者犬甘
(飼)氏の勢力下にあつ
た地域と想定されます。

その地から明治時代までに、高松、北中、南中、青島、下町、北方、犬飼新田の諸村が生まれました。現在の島内地区20町会の内、12町会が含まれる広い範囲です。

恵みをもたらす用水堰

村落の成立には、とりわけ
水稲栽培の出来を左右する用
水堰の開削は不可欠でした。

「島」の名が付き、地区内を

縦断する島堰を始め、梓川水系には古梓川（こそうがわ）といわれる樽木川堰、元の川を利用したと思われる樽木川堰（はづねがわ）があります。ほかにも、ホタルが生息することでも知られる車屋堰や、奈良井川水系の勘左衛門堰、拾ヶ堰などがあり、多くの用水堰が枝分かれして発達し、豊かな実りをもたらしました。



今回使用した参考文献

松本市ではなかった！

明治7年に11か村が統合された「安曇郡嶋之内村」は、翌8年には表記が「嶋内村」に変更されました。12年には東筑摩郡に編入され、昭和29年に松本市と合併しました。人口増加に伴い平成5年に誕生した「ウツダタウン小宮」のユニークな町会名に、島内地区の発展の勢いを見る思いがします。



松本平の野鳥たち



センダイムシクイ (2022年6月松本市内田 写真提供:信州野鳥の会)

緑がかった褐色のムシクイ類の仲間。スズメより小さく、白っぽい過眼腺があるのが特徴。樹中の枝にとまりながら、また、移動しながら囀ることが多い。聞きなし（声を日本語に置き換えて表現）では「焼酎一杯ぐいー」「鶴千代 君」が有名。夏鳥として飛来して、低山地の主には落葉広葉樹林に生息。アルプス公園でも、市内の里山でも姿は見つけにくくても鳴き声を聴くことは容易。



待ちこがれた春に
みんなの笑顔が揺れて
サクラ咲く、晴れの日



(撮影：2024.4.13 松本城公園)